

# 金 融 市 場 動 向

— 平成 5 年 8 月 —

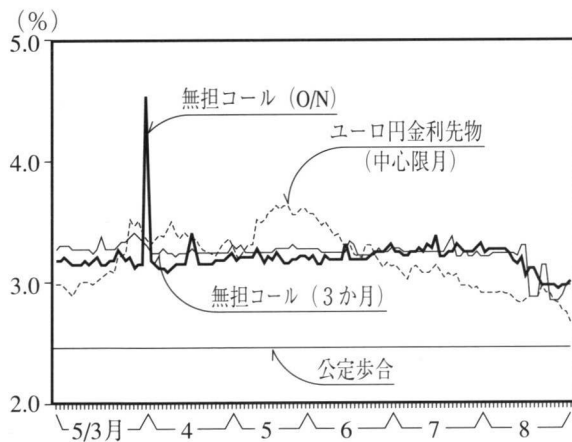
(平成 5 年 9 月 13 日)

## 1. 短期金融市場

8 月中のオーバーナイト・レート（無担コール）、ターム物レートは、中旬以降低下し、それぞれ既往ボトムの水準となった。また、ユーロ円金利先物（金利ベース）も、月央以降低下した（なお、月央に限月交替＜中心限月 6 年 3 月限→6 月限＞）。

コール・プロパー手形市場資金平均残高は 43 兆 532 億円と、前月（45 兆 2,876 億円）を下回った。

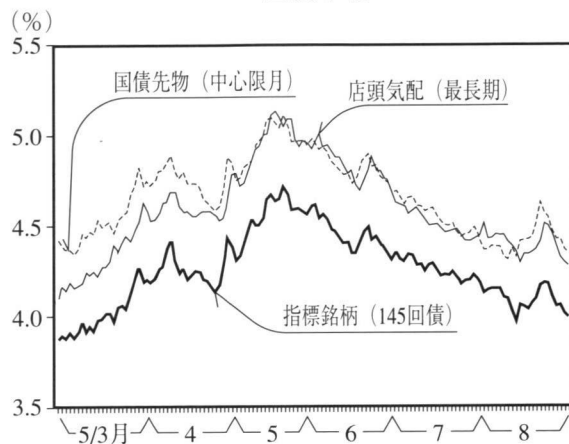
短期金融市場金利



## 2. 資本市場

8 月の国債利回り（145 回債）は、月央に一時上昇したものの、米国長期金利（30 年物財務省証券利回り）の既往ボトム更新や国内短期金利の低下等から、総じて低下傾向をた

既発債市場利回り  
— 国債市場 —



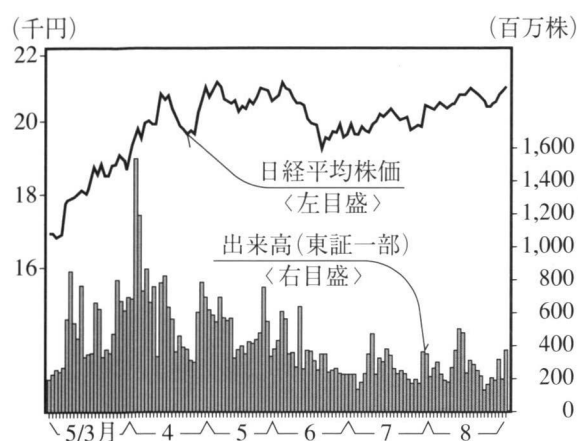
どり、4.015%（前月末 4.210%）で越月した（国債先物中心限月 4.357%＜前月末 4.456%＞、なお、11 日に限月交替＜中心限月 5 年 9 月限→12 月限＞）。

国債の出来高をみると、現物（店頭取引）、先物ともに前月を上回った。

株式市況（日経平均株価）は、長短金利の緩やかな低下等を背景に、月末にかけて上昇し、21,026 円（前月末比 +646 円）で越月した。また、株式出来高（東証第一部月中 1 営業日平均）は、2.72 億株と前月（2.69 億株）並みの水準となった。

起債動向をみると、長期国債（9 月債、10 年＜価格競争入札分＞）は、クーポン・レートが前月債比 0.1% 引き下げられたものの、堅調な債券市況を背景に、好調な入札となった（8 月 25 日入札分：募入平均利回り

## 株式市場



4.316%、応募倍率6.87倍)。短期国債についても、概ね順調な入札結果となった（8月5日入札分<6か月もの>：募入平均利回り2.913%、応募倍率2.11倍、8月17日入札分<3か月もの>：募入平均利回り2.779%、応募倍率2.06倍）。

国内公募普通社債の発行は、前月に引き続き、発行体が金利先安感から起債先送り姿勢を強めたことから、前月同様低水準にとどまった（7月670億円→8月1,000億円）。

国内エクイティ市場での発行（8月払込み分、増資は除く）は、前月並みの起債となった（7月2,480億円→8月2,550億円）。

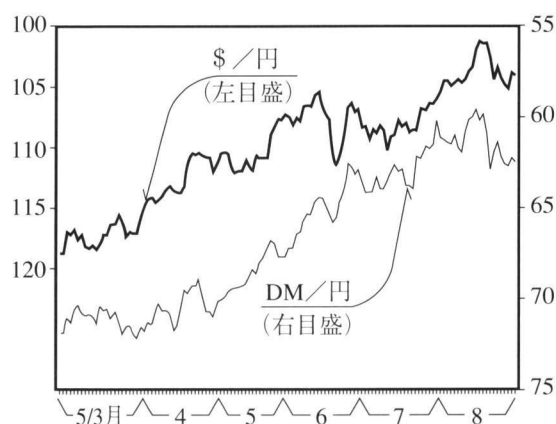
## 3. 外国為替市場

8月の円相場（対米ドル直物相場、終値）は、月央にかけては円高が進行し、16日に101.25円と既往最高値を更新したが、円高の行き過ぎに対する警戒感や8月19日の米国財務省サマーズ次官のステートメント等を受けて、下旬入り後は105円台まで下落し、結局104.18円で越月した（前月末105.60円）。また、

円の対マルク相場（ニューヨーク市場、終値）も、月央にかけて上昇し、13日には59.48円と既往最高値を更新したが、その後反発し62.47円で越月した（前月末60.09円）。

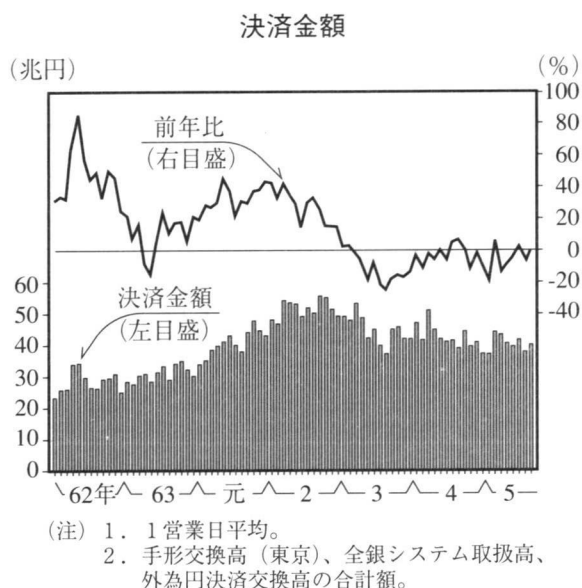
なお、東京外国為替市場の出来高（円対米ドル、直物および先物・スワップ計、1営業日平均）は165.3億ドルと、前月（153.0億ドル）を若干上回った。

## 外国為替市場



## 4. 決 済

8月の資金決済の金額（1営業日平均）をみると、全銀システム取扱高、外為円決済交換高、日本銀行当座預金受払額はそれぞれ前年同月を上回った（全銀システム：前年比+5.7%、外為円決済：同+1.8%、日本銀行当座預金受払：同+10.3%）が、手形交換高（東京）は、前年同月を下回った（手形交換：前年比△5.4%）。また、国債の決済金額（1営業日平均）は、移転登録、振込口座振替ともに前年同月を上回った（移転登録：前年比+7.0%、振込口座振替：同+11.5%）。



## 5. 資金需給、金融調節

8月の資金需給をみると、銀行券要因が9,216億円の余剰（前年同月6,318億円の余剰）となった一方、財政等要因は、国民・厚生年金の定時払い等がみられたものの、夏季賞与にかかる源泉所得税を中心とする税揚げ等がかさんだことから、1,436億円の不足（前年同月2兆5,318億円の不足）となり、全体では7,780億円の余剰（前年同月1兆9,000億円の不足）となった。

こうした状況下、日本銀行はF B売却等により資金を吸収した。

9月の資金需給（国債発行織り込み前）をうかがうと、銀行券要因については、2,000億円程度の余剰（前年同月5,274億円の余剰）となる見通しであるほか、財政等要因も、地方交付税交付金や国債元利払い等がかさむことから、3兆4,700億円程度の余剰（前年同月2兆6,970億円の余剰）となる見通し。この結果、全体では3兆6,700億円程度の資金

余剰（前年同月3兆2,244億円の余剰）と予想される。

## 6. マネーサプライ、銀行券、預金・貸出

7月のマネーサプライをみると、 $M_2 + CD$ 平残前年比伸び率は+1.7%と前月に比べ0.3ポイント上昇した。これは通貨供給要因に則してみれば、財政のネット支払増を反映したものである。通貨種類別にみると、CDの伸び率が低下したものの、預金通貨、準通貨の伸び率は上昇した。また、広義流動性の平残前年比伸び率は+3.0%と前月比横ばいとなった。

8月の銀行券平残前年比は+3.4%と前月比低下した。

8月中の金融機関の預金・貸出動向をみると、預金平残（実質預金+CD、都銀、地銀、地銀Ⅱ）は、前年比+0.9%と前月比横ばいとなった。また、貸出平残（都銀、長信、信託、地銀、地銀Ⅱ）は、前年比+0.8%と既往ボトムを更新した。

## 7. 貸出金利

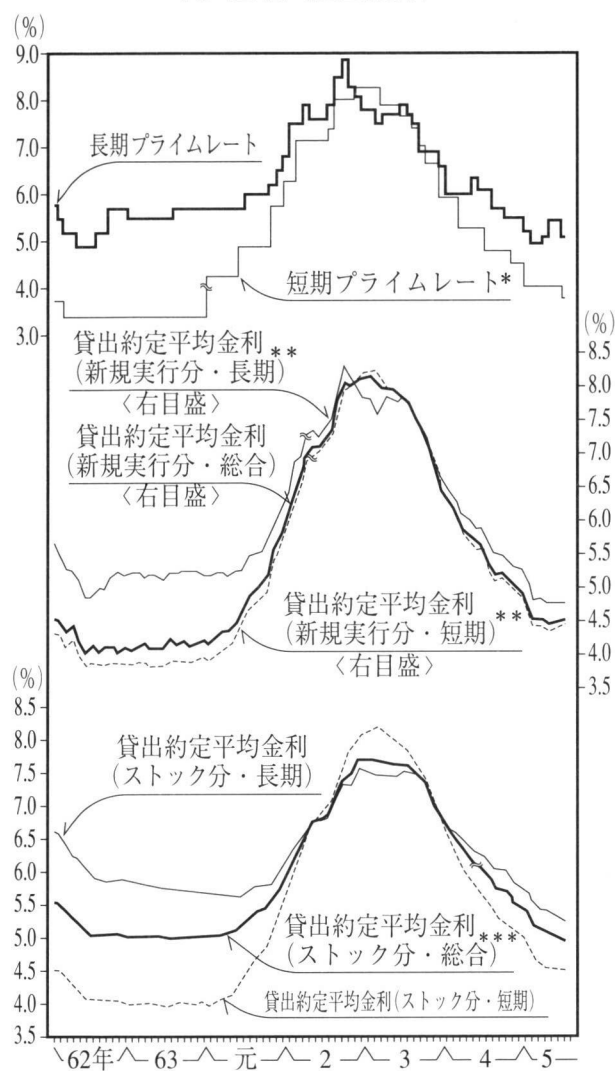
7月中の貸出約定平均金利（全国銀行）をみると、新規実行分は、短期、長期ともほぼ横ばいで推移し（短期：前月比+0.043%、長期：同△0.008%）、総合では前月とほぼ同水準となった（6月4.458%→7月4.493%）。

また、ストック分については、短期、長期、当座貸越ともに引き続き緩やかな低下傾向をたどり（短期：前月比△0.020%、長期：同△0.023%、当座貸越：同△0.021%）、総合（当座貸越を含む）では5年ぶりに既往ボトムを更新した（総合：6月5.034%→7月

5.008%)。

この間、7月の定期預金金利（自由金利分、3か月以上6か月未満の全銀受入金利平均）は、前月比低下した（6月2.952%→7月2.904%）。

貸出金利（全国銀行）



(注) \* 元年1月以降は都市銀行のなかで最も多くの数の銀行が採用した金利。

\*\* 2年4月以降は地方銀行Ⅱを含む。

\*\*\* 4年4月以降は当座貸越を含む。

(調査統計局)